

## 第 226 回 北社会

# 日本レンゲの会 20 年の活動

～ 緑化運動に先人の叡智を生かしたい～

宮城県仙台第二高等学校第 19 回卒業

日本レンゲの会専務理事・事務局長 佐藤芳博

皆さんお晩でございます。高校 19 回卒、昭和 23 年・1948 年 4 月生れの佐藤芳博です。北社会でお話申し上げる機会を頂き感謝申し上げます。

2004 年宮城県は、米が豊作で豊作貧乏になるのではないかとの話が出ておりました。しかし、異常気象で台風の上陸が多く、10 月は雨の多い日が続いておりました。最終的には、収穫後も農産物価格は、気象条件や自然災害に大きな影響を受けることを実感させられる年でした。

我が国のカロリーベースの食料自給率は、昭和 40 年代の 73% から 50 年度には 54% へと短期間に大きく低下しました。その後、ほぼ横ばいで推移してきましたが、60 年度以降再び大きく低下し、平成 10 年度には 40% となり、それ以降は 6 年連続で 40% と横ばいで推移しています。

食料自給率が低下した主な原因は、実は、私たち日本人の食生活が大きく変化したことにあります。日本の気候風土に適した自給可能な米の消費が減り、畜産物、油脂類の消費が増えました。15 年度の米の自給率は 95%、畜産物 16%、油脂類 4% です。

ちなみに宮城県のカロリーベースの自給率は 14 年度 81%、15 年度 65%、金額ベース 14 年度 107% です。全国の金額ベースは 14 年度 69% です。

そんなことを調べながら農水白書を見ておりましたら、お雑煮の種類についてのコラムがありましたので、資料の中に入れておきました。日本食の多様性を端的に現していると思います。味付け・餅の形・焼くか煮るかの違い、これに具の種類を考えただけで様々なお雑煮を想像することが出来ます。それは、自然環境に根ざしていることは間違いのないと思います。スローフード(絶滅の危機にある食材や伝統料理を守る 質の良い食材を提供する小規模農家を守る 次世代の子どもたちに食教育を推進する)の考え方からも、各地のお雑煮文化を守っていくことは、日本の未来にとって大切なことではないでしょうか。

それでは、生物・人生・人間関係・国際関係の多様性を考えながら続けてきました日本レンゲの会の活動の一端についてお話させていただきます。

## 1. 日本レンゲの会の設立

それは年賀状から始まった

私は仙台市若林区南小泉に生まれ育ち、小学校の東側は一面の田んぼで、そこや郊外にある霞の目飛行場には春になるとレンゲ草が咲き乱れ、「電車ごっこ」や相撲をしたなつかしい思い出があります。

10歳の時、岩手県北上市生まれの祖母から「人は三里以内で採れたものを食べるのが一番良い。生活しているところの気候で育った米や野菜を、その水で料理するのが身体にいい」と教えられました。

二高時代、駄馬さんの愛称で親しまれていた日本史の斉藤栄吉先生から、NHK大河ドラマプロデューサーの吉田直哉さんが卒業生で教えたことがあるとの話を聞き、吉田直哉さんが制作する番組は良く視ておりました。アマゾンなどの自然環境に関する考えさせられる番組が多く、新たな病気が出た時、治療薬を開発するためにもアマゾンを始めとする地球上のあらゆるものを残しておかなければならないとの言葉は、その後の私の活動を決定づけました。

これらの言葉が念頭にあり、1982年の正月「地球が星としての生命を終え再細分裂するまで、その環境を守るのが人間の叡智ではないか」と友人の長田研一さんに年賀状を出しました。数日して「一緒に緑化運動をしませんか」と誘いを受けたのが当会設立のきっかけです。

当時は減反で、多くの休耕田がありました。田んぼは保水するために長年かけて粘土が敷き詰められており、耕さないでいると雑草だけが生い茂り、どんどん下へ根を張りやがては水が抜けてしまい、雑木林になってしまうところもありました。

幼き頃の淡い思い出、レンゲの花  
緑肥、飼料、蜜源、それはレンゲ  
レンゲの郷愁を現実の野原に  
レンゲは大地を肥やし、人々を豊にする

そんなことを考えながら、「野に満ちよレンゲ草」との思いで準備を進め、1984年5月20日、アルプスを望む長野県穂高町で設立総会を行い、その模様はNHK『関東甲信越小さな旅』で紹介して頂きました。

当時は、アメリカでの大雨による表土の流失、インドでの地下水の汲み上げすぎによる塩害のことが取上げられ、国内では、休耕田の草が田圃の水抜けをもたらししていることなどが問題視されておりました。

私は、世界的な食糧不足や今後の人口の増加を考えるならば、祖母に教えられたことを生かさなければと思い、さらに仕事柄、紙を大量に使うので環境にお返ししなければと考えました。

規約で「レンゲの種蒔きを通じて、肥料・飼料・蜜源・食糧としての効用を広く社会に知らしめ、日本及び世界の農地の地力の回復、増進をはかり、緑豊かな景観形成と、地域と世代を越えた交流を目指すことを目的とする」「根粒菌の特性を生かした有効活用をはじめ、目的に沿った活動を行う」と定め、会の設立者の一人としてその後20年休耕田を食料生産できるように保持しておくためにレンゲを活用しようと日本レンゲの会・世界レンゲの会の活動を続けてきました。私にとっては、人間関係を広め現実を知るための、多足の草鞋の一つでもあります。

毎年4月29日に日比谷公園で行われている、みどりの感謝祭協賛団体にもなっております。その関係で、日本さくらの会役員の二高の先輩から親しくご指導を頂いております。

ここで役員の一部を紹介しておきたいと思います。会長は村山元英<sup>もとふさ</sup>千葉大学名誉教授・中京大学大学院教授、副会長は野中一二三京都府園部町長と妻の介護で市長を辞任した江村利雄前大阪府高槻市長、理事に直木賞作家の井出孫六さんなどがおられます。

## 2. レンゲまつり                      多様性が基本

1984年から各地でレンゲまつりを開催してまいりましたが、あくまでも地元のことを尊重し、地域の意向に沿うような形でしてきたことが長続きの秘訣だと思います。

ここで各地において行われた行事について紹介します。

子ヤギの乳搾りの体験教室

結婚式

「れんげ草」の歌の募集と発表

「れんげ草」の歌を流す

中国・アメリカ・ネパール・セネガルのレンゲ学者・栽培者との交流

公開討論会

大正琴の演奏

和太鼓の競演

レンゲの草木染め

写真展

写生会

俳句会

レンゲの花冠づくり

レンゲの縄跳び

新聞社・東京電力・台東区提供の大ジャンケン大会

レンゲ畑の相撲大会

レンゲ畑の綱引き

落書き大会

宝探し大会

地区対抗ゲートボール大会

カラオケ大会

レンゲに関するビデオの上映

長野県穂高町・大阪府高槻市・宮城県多賀城市では、レンゲ料理試食の機会を設け、ホームページでレシピを公開しています。レンゲゼリーは定番になり、一物全体食として天ぷらが一番美味しいと声を掛けられます。

レンゲ定食として、2003年7月3日NHK仙台『てれまさむねGo!Go!』で紹介して頂きました。

レンゲ関連グッズの製造販売 今まで販売されたものをご覧頂きたいと思えます。高槻市のレンゲ染めも一緒にお回しします。ポケットティッシュ入れは、大変気に入って使っていたのですが、満員電車の中で押されているうちに落としてしまいお見せできないのが残念です。

レンゲ染めについては、多賀城レンゲまつりに参加して頂いた観光ボランティアの旧制仙台二中先輩から、栽培面積を増やしレンゲ染めを生産し、歴史の街で一年中売れる染物グッズを観光客に販売してはどうかとのご提案を頂きました。

高槻市をはじめ各地で、レンゲ畑で保育児・幼稚園児・小学生が、遊ぶ姿が見られ、その様子がホームページで、数多く公開されています。子どもたちが、レンゲ畑で遊んだ楽しい思い出を心の遺伝子として残すことが出来れば幸いです。そして、お年寄り・障害者が安心して参加できる行事を企画することによって、生きる実感と満足感を自然の中で共に分かち合うことが出来る、心の年金として活動できる人々が増えればと願っております。

とにかく、行事は何でも出来ますが、地域の実情に合った無理の無い範囲ですることが肝心だと思います。

多賀城では、イベント保険をかけて開催しています。

日本レンゲの会の役員の中には、私を筆頭にお酒が好きな人が多いのですが、酒に酔っても自分たちの運動には酔わないようにしなければならないと思っております。あくまでも運動の多様性を追求して行きたいと考えております。

老若男女全ての方々が参加出来るようにするには、次のような行事も考えられます。ご参考までに、お話ししておきたいと思えます。

子どもたちが先生になって、日本文化を世界に広める最適の手作り交流としての折り紙教室

おじいさんおばあさんに教えるお孫さんたちによるパソコン教室

孫が教える携帯電話教室

金婚式・銀婚式

三味線の演奏に合わせながら二人一組で勝ち上がるジャンケン大会 江戸名残の「和藤内」 これは、三年前の春に初めて知りました。ワープロでは出てきますがパソコンではすぐ文字が出てこないの、古い遊びになってしまったのかもしれませんが。

### 3. 国際レンゲ会議について

### レンゲが結んだ縁

1986年5月3日、東京都台東区の区民会館で、下町レンゲ祭りの一環として国際レンゲ・シンポジウムが開催されました。テーマは「レンゲと地域活性化」です。

パネリストとして、アメリカ・ワシントン州立大学のトーマス・A・ランブキン教授が参加され、初めての学術的な会議でした。

ちょっと残念だったのは、中国・南京農業大学の樊慶笙(ファン・チン・シェン)教授をお招きしていたのですが、都合でご出席頂けなかったことです。しかし、ファン先生には、レンゲが結ぶ日中友好の懸け橋の役割を果たして頂きましたし、1987年には訪日され中国のレンゲの実態を高槻市で講演して頂き、その後の日中レンゲ交流の足掛かりをきちんとつけて下さいました。

この様な関係から、今までに中国で4回、日本では1990年に茨城県桜川村、95年京都府園部町、98年大阪府高槻市で国際レンゲ会議を開催し、それぞれ宣言を発表しております。

ランブキン博士の『表土の流失を防ぎ世界の大地を守ろう』との呼びかけもあり、中国・アメリカのほかにネパール・ブータン・マダガスカル・セネガルとの交流もしてきました。

レンゲは、根につく根粒菌の作用で肥料になる空気中の窒素を土壌に固定します。この特性を生かし、ダイオキシン・重金属などの有害物質除去の研究も進んでいます。

今後も、生態系について十分に考えながら、古代文明が荒野をもたらしたこともあることを忘れず、地球規模での異常気象による環境破壊を防ぐ努力を続けたいと思っています。

ちょっとここで、珍しいものをお見せしたいと思います。

何に見えるでしょうか。

これは中国の国家作物種質庫を訪問した際に頂いた、種を保存する入れ物です。国家レベルで種子の品質保存に力を入れている様子を見学してきました。飼料用のレンゲには、かつて2メートルになるものもあり、あらゆる種子を保存しているそうです。

余談になりますが、多賀城で植木の中に種を播いたら1メートルくらい伸び、植木の花より上でレンゲの花が咲いたのを見て私は喜びましたが、植木の好きな人には嫌がられたので反省しております。

こういうことをするから、レンゲに酔っていると言われるのでしょうかねー。しかし、最近の品種にも長く伸びる遺伝子が残っているのを確認出来たようで、私にとっては貴重な経験となりました。

#### 4. 日本におけるレンゲの栽培管理

(『レンゲ全書』安江多輔編著 社団法人農山漁村文化協会刊より)

レンゲの学名は、*Astragalus sinicus* L. であり、*Astragalus* は、「距骨」(足首の骨を形成する骨片)、*sinicus* は「支那の、支那産の」を意味し、中国において最初に採集され、また、その原産地を中国とみなして命名されたものである。

なお、*Astragalus* 属(レンゲ属、モメンズル属)は、マメ科のなかでも大きな属であり、中央アジアに多数の種があり、その数は1,200~1,600種といわれている。

中国における名称は、現在では、「紫雲英」および「紅花」が一般的に用いられている。

日本における名称は、現在最も多く用いられているのはレンゲ(レンゲソウ)で、次がゲンゲであるが、ゲンゲは多くの地方において老人に多く用いられ、若い人たちはレンゲを用いることが多い。

英名では、Chinese Milk Vetch であるが、Renge、Genge、a kind of Vetch、Pink clover などの記載もみられる。

##### (1) 栽培の適地

マメ科植物は深根性であり、その根に共生する根粒菌の繁殖のためには乾燥が必要である。過湿な土壌は根粒菌の繁殖を妨げるので、レンゲの生育が悪く、凍害を受けやすい。

##### (2) 適種の選択

栽培上重要な品種の特性としては、早晩性、耐寒性、耐雪性、耐湿性および耐病性などがある。

### (3) 播種の準備

播種時の乾燥程度は田面を歩くと足指の間にわずかに土が出るくらいが適当である。

### (4) 種子の予措

硬実が多い場合には、砂つき法によって磨傷処理を行うことが望ましい。

(多賀城での実験では、ミキサーに種と砂を入れて傷をつけてから根粒菌をまぶし、空に投げ上げて播種した場所の発芽率が良いです。山砂利の通路に傷をつけないで蒔いたのが、見た目には一番発芽率良かった。佐藤芳博)

### (5) 播種期

播種適期はその地方の気候と水稻の作期によって異なるが、霜の降りる 1~1.5 ヶ月前である。

(地球温暖化でかなり播種時期が遅くても開花するようになりました。宮城県ですと、9 月中に播種すれば大丈夫です。場所により日当たりがよければ 10 月中旬まで可能な場所があります。関東地区は 9 月中が良いですが、暖かいところは、10 月下旬まで可能です。佐藤芳博)

### (6) 播種量(末次・岩切, 1950)

東北・北陸	3.0~4.0Kg/10a
関東・東山・東海・近畿・中国	2.5~3.5/10a
四国・九州の暖地	2.0~2.5/10a

### (7) 播種方法

覆土の暑さは 1~2cm が適当であり、5 cm 以上になると出芽が悪くなる。薄播する場合には、等量の砂を混ぜて播種すると均一に播種できる。

(覆土をしなくても芽は出ます。佐藤芳博)

### (8) 根粒菌の接種

レンゲが栽培されたことのある土壌中には根粒菌がいるので、接種しなくてもレンゲはよく生育するが、レンゲを初めて栽培する所や根粒菌の着生が少ない所では、根粒菌接種の効果は大きい。根粒菌は好気性細菌なので、その活動を旺盛にし窒素固定能力を高めるためには、排水に注意しなければならない。

## 5 . 四季咲れんげ美濃紫雲

(株式会社種萬社リーフレットより)

周年利用の蜜源及び観賞用の品種、同時に緑肥及び飼育用としても利用できる多目的品種。

#### ・ 本種の特性

春~夏蒔(4月~7月)、夏~秋蒔(8月~10月)に両用出来るので、播種期を

ずらすことによりほぼ1年中開花させることが出来る。(低温に遭遇しなくても開花する。)

極早生で4月~7月に播種した場合には、1ヶ月~2ヶ月で草丈10cm前後で開花を始める。

8月~9月に播種した場合には、その年の9月~11月に開花を始め翌春5月頃迄開花し続ける。

10月以降に播種した場合には、普通のれんげ同様翌春開花するが開花は早い。

9月下旬~10月上旬(れんげの播種適期)に播種すると草丈30~40cm、莖数15~20本となる。

日本レンゲの会が栽培から学んだこと。(佐藤芳博)

深い植木鉢を用意する(根がかなり伸びるので、浅いと成長を阻害する)。

肥えた土を入れる(庭の土で結構ですが油粕を入れるとさらに良いです)。

種が硬く発芽しにくいので、砂などで種子の表面に傷をつける。

種子に根粒菌をまぶしてすぐに蒔く(根粒菌のかわりにレンゲが開花して、種ができた場所の土を利用しても良い)。

水捌けが悪いと腐ってしまうことがあるので鉢植えの時は、特に注意が必要です。

直播きのときは、水捌けの良い場所を選ぶ。

植木鉢を吊るすと鉢の周りにレンゲの花が広がり綺麗に生育する。

## 6. レンゲ栽培の復権

### 本来の植生を求めて

戦後の食糧難から早場米奨励金が出、稲作に化学肥料・化成肥料を多量に使用するようになり、農耕の機械化が進み家畜による耕作が激減し、昭和30年代からレンゲは、開花時期の早い九州・中国・四国、県の花がレンゲの岐阜県では多少残りましたが、かなりの地域で、開花の時期と田植えの時期が重なりレンゲ栽培は激減しました。

肥飼料作物としての全国でのレンゲの栽培面積は、1960(昭和35)年には238,700haありましたが、2003(平成15)年には29,200haまで減少しました。一番少なかったのは1988(昭和62)年の13,900haです。

宮城県は、1956(昭和31)年の1,677haから1979(昭和54)年には0になり、1998(平成10)年には309haまで復活したものの、2003(平成15)年には41haまで減少しました。

地力増進作物(緑肥)・景観形成作物・飼料作物・蜜源作物になりますので転

作物としての栽培が出来ます。最近は増加傾向にあり、レンゲに郷愁を抱く人々によって各地で栽培が広がり現在に至っております。

岩手県遠野市遠野ふるさと村は、当会が関わりをもつレンゲの北限地で、日本ミツバチが生息しており、村内の環境が変化に富んでおります。今後も栽培を続けて頂ける様にお願いしております。

都内のある小学校では、校地や通学路で、自然条件が異なる場所で、蒔き方に変化を持たせレンゲ栽培を試みようとしております。可能な限り協力をしていきたいとの方針で臨んでいます。

しかし、ヨーロッパ原産のアルファルファタコゾウムシが福岡県・沖縄県から九州一円に広まり、一昨年は岐阜県内に広がり、昨年は、北関東にまで拡大し、レンゲまつりを中止したところが沢山でした。

九州では、10～15年で自然に消えたとのこと。大阪府高槻市と岐阜県は一昨年かなりの被害が出ました。高槻市三島江は、1反当たり油粕60Kg・牡蠣殻120Kg入れ、栽培者によってはヘーローサイ(鉄分25%)を毎年入れているとのこと、特に害虫対策は行っていませんが、昨年は今までで一番きれいに咲いたとのこと。岐阜県も普通の年と変わらなく咲いたとのこと。

天敵の蜂はいますが、生態系を乱すので使えません。蜂蜜を採取するので農薬は使えません。自然由来の微生物を増殖して散布するか、畦道を含め田圃を一度完全に水没させると死滅しますが、稲作・レンゲ栽培に影響の少ない時期を選ぶのは至難の業です。

出来るだけ自然の治癒力に頼りながら、被害状況と対策について把握した内容を公開し、新たな害虫対策について各位の協力をお願いしているところです。

## 7. 食料としてのレンゲ 紅花に夢をのせて

設立総会の行われた会場で、千葉大学の村山元英研究室の学生さんたちが作ってくれたレンゲの味噌汁が、私にとっては最初のレンゲ料理でした。

その時村山教授からお聞きしたところ、古代食の専門家に指導を受けて料理をしていたそうです。

詳細は、レシピをお配りしておりますので後程ご覧いただければと思います。

## 8. 花言葉と所縁 諸説に夢がふくらむ

エピソードといわれ：

ギリシャ神話に登場する仲良し姉妹の話です。

ある日、二人は祭壇に捧げる花を摘みに野に出て、水辺に咲いているレ

ングソウを見つけました。

姉のドリュオペが摘むと、折った茎から血が流れました。

その花はいやな男から逃れるために、ニンフが姿を変えたものだったのです。ニンフの代わりに、もう彼女の足は草に変わり、根が張っていました。

「花はみな女神が姿を変えたもの。もう花は摘まないで」と言い残して、ドリュオペはレンゲソウになってしまったということです。

日本では「春の小川はさらさらゆくよ。岸のすみれやれんげの花に…」という、「春の小川」の歌で有名な花です。

レンゲソウは、肥しとしての価値も高いため、秋に収穫した後の田にレンゲの種を撒き、春の満開時にその田の中にすきこみます。

薬効もあり、そこから『私の苦しみをやわらげる』という花言葉になりました。(『花言葉・花贈り』濱田豊監修 池田書店刊)

花ことば：あなたは幸福です・あなたは私の苦痛をやわらげる・心が和らぐ・私の幸福・感化(『花と花ことば辞典 原産地・花期・物語・生薬付』伊宮 伶編著 新典社刊)

花言葉：あなたは幸福です・私の苦痛をやわらげる・感化・心が和らぐ  
所縁の日にち：3/3 3/12 4/13 4/18 8/22 8/31

(フラワーショップ花友ホームページより)

花言葉 誕生花：4月4日 感化

8月31日 心が和らぐ

(千趣会イイハナ会社ホームページより)

他の著作には、3月1日、3月3日、4月5日、4月8日、4月18日の誕生花としているものもあります。366日誕生花に関する著書でもレンゲが入っていないものもあります。

中国・日本・韓国での栽培は確認されていますが、他の地域では、根粒菌接種によって、アメリカ・セネガル・ネパール・ブータン・マダガスカルでは、試験的に栽培することができました。

しかし、ギリシャでの栽培は確認されていないので、神話の起源を知りたいと思っています。

ワールドウォッチ研究所の『地球白書 2001-02』(2001年4月1日刊 社団法人家の光協会発行)によりますと、

皮肉にも国連は、自然災害がもたらす被害の増大を防ぐため、1990年代を「世界の自然災害軽減のための国連 10年」としていた。しかし、現実に残された数字からすると、1990年代は『世界の災害が頻発した10年』として歴史に残るほど、被害の大きな洪水、暴風雨、地震、火災などが多発した。

と記し、さらに

世界中で「自然災害」が引き金となった破壊の割合が増えている。その原因は、生態系を破壊し、また自らをリスクの多い状況に置いていることである。多くの生態系はもはや回復力もなく、自然の攪乱に耐えられないほどに劣化しており、「非自然的災害」 人間のさまざまな活動の影響で頻度も激しさも増した災害 が起こる状況ができています。

と続けております。

また『地球白書 2004 - 2005』は、消費社会の広がりの問題点を幅広い角度から指摘しています。

今世紀は、地球上の「いのち」をいかに護り続けられるのか全ての人々が問われているのではないのでしょうか。

休耕田は、3年も手を加えないと荒地に戻るといわれております。7年前(1998年)、宮城県のあるところで、もう何年も耕されずに雑木まで生えてきている休耕田を見たときには、胸にグッとくるものを禁じ得ませんでした。

休耕田があるとそこに害虫が集まり、冬を越し、耕作が始まると、稲につく虫がそこから移動して広がっているところもあります。

5年前(2000年)の秋、東京都台東区立金竜小学校にレンゲの種蒔きに行った時、校庭の花壇を掘り起こしていたら、何十年振りかで根きり虫に出会いました。「周りがコンクリートやアスファルトだらけになってしまったので、近隣の虫たちがこの花壇に集まってきたのです」との言葉を耳にしました。色々な虫さんたちが土を柔らかく暖かくして肥やしていたので、翌年の春、きれいな花が咲きました。土壌の大切さを実感させられました。何が害虫なのか考えさせられた一瞬でもありました。

当会は、今後はレンゲだけでなく、日本たんぽぽや日本蜜蜂などの復活も視野に入れて、かつて自然界にあり、失われつつある草花を取り戻し、あらゆる植生がより自然に近い形で再生していける環境作りにも取り組まなければと考え、あぜ道と近隣の草を残す様にしています。そこは生き物の巣になり、イネ科の植物や薬草がいっぱい生えています。そうしておくことで土中に有用な微生物

や虫が増え蝶も舞うようになり、雉や小鳥もえさを求めて飛んできます。レンゲ田は自然の循環を作り出し、子どもたちは総合学習の場として遊んでいます。多賀城のレンゲ田では、雉が私の7メートルくらい先を歩き、さも案内するかの様なかたちで餌をついばんでおります。

人と自然にやさしい貢献を実践していて良かったと思う一瞬です。

転作検査後に化学肥料・化成肥料を使うことなく土壌を豊にするレンゲの性質を生かして、地産地消の実践として、学校給食用の有機作物栽培も出来ればと考えております。田圃は日本の命・食農教育を考える場にもなります。

しかし、私達は、身土不二・農都不二の立場から、都会の人間の遊びではなく、「水も空気も含めてふるさとの味」と言えるような活動を、耕作する方々と共にしていかなければならないと考えております。

スローライフ・多様性を楽しむ時、緩やかな経済成長と人間としての豊かさの回復が地球環境を守ることになるのではないのでしょうか。

これからも、皆様方のご指導を頂きながら会の活動を続けていきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願い致します。

© 2005 日本レンゲの会 事務局長 佐藤芳博

URL <http://www.nihonrengenokaisatoyoshihiro.jp>

メール [yoshisat@s6.dion.ne.jp](mailto:yoshisat@s6.dion.ne.jp)

[rengayos@s3.dion.ne.jp](mailto:rengayos@s3.dion.ne.jp)

[yoshisat0357290008@docomo.ne.jp](mailto:yoshisat0357290008@docomo.ne.jp)

電話 03-5729-0008 022-368-1227

090-3330-5237

F A X 03-5729-0007 022-389-0355

会費送金用・郵便振替口座

00120-9-188598 日本レンゲの会